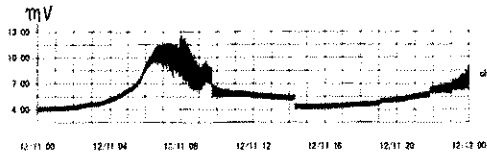


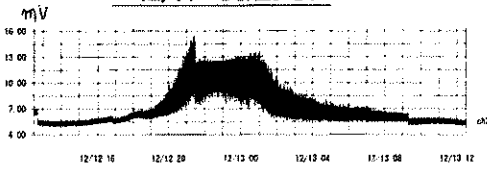
原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町戸戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 続報 前兆関係集約 12月15日±に極大が出現し、12月24日±の可能性検討

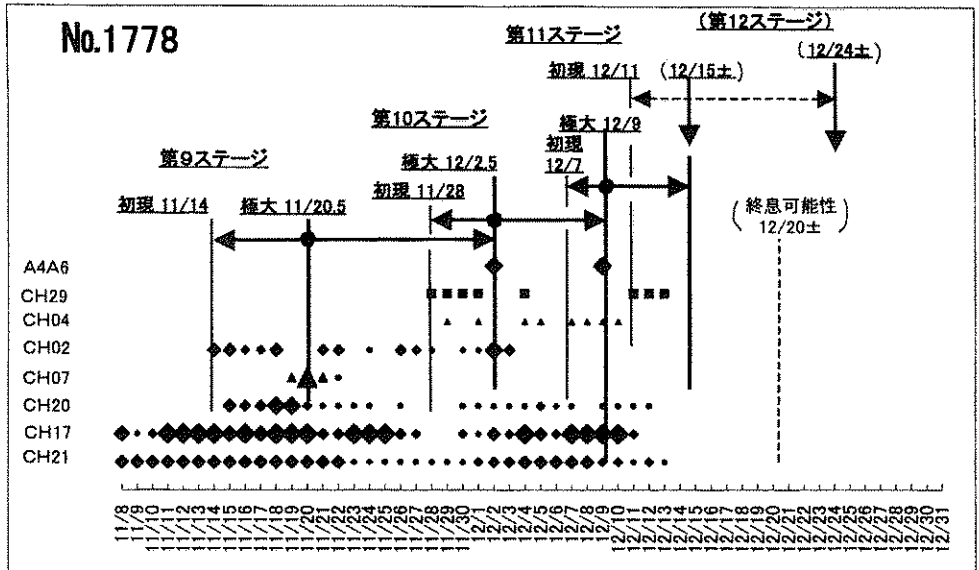


12/11のCH29-BT



12/12~13のCH29-BT

上波形はCH29の基線幅増大BT前兆。12月11日から三日連続で出現中。BTは夜間～未明に出現し、午前09時±に終息する変化。No.1778の推定発生時刻を示唆する過去のBTと同じ時刻に変化。



唯一の継続前兆CH21は微弱だが、12/11から出現のCH29BTを考慮

2008年07月より7年5ヶ月と云う過去観測歴上最長の前兆継続をみせる極大が複数出現し、現在までに11ステージに別れる前兆群形態を示す特殊前兆群の現況続報です。

現在は第11ステージ認識 (極大=12/9) です。前情報では、様々な可能性を考察報告致しましたが、一番早い場合の可能性は、12/7初現～12/9極大の関係で、12/15±を示すものでした。この場合は12月13日夜頃までに静穏化が示唆されます。

本日12月13日夕刻現在、継続している前兆はCH21の弱い特異のみです。これも正常基線電圧値まで2～3mV低い値程度で特異状態としては非常に微弱で静穏傾向にあります。本日深夜迄には静穏化する可能性も考えられます。この認識では、12月15日を示すこととなります。しかし、上波形に示すとおり、CH29に12月11日未明から短時間の基線幅増大(BT)前兆が出現して

います。CH29-BTは深夜～明け方に出現し、午前09時±に終息する変化を示しており日中は静穏です。このCH29-BTが12月11日から継続出現していることを考慮する必要があります。

上図の第9ステージ以降の前兆出現状況図を参照戴いてもお判りのとおり、前兆終息時期にあつて、その前から継続出現する前兆がある場合は、次ステージの初現となっています。

従って、12月07日初現～12月09日極大の関係で12月15日を示すとしても、12月15日が発生日ではなく、12月15日±に新たなピークが出現し、次ステージの第12ステージに以降する可能性が強く示唆されます。そうでないと12月11日から継続出現しているCH29-BTの出現形態理由が説明できません。

本日深夜迄に唯一の継続前兆であるCH21が完全静穏化し、明日12月14日未明～明け方にCH29-BTが出現しない場合は、12月15日発生の可能性は否定できなくなりますが、その可能性は極めて低いと思われます。

12月15日±にピークが出現するが、ピーク後に継続する前兆はCH21とCH29なのか、今後を観測しないと判りませんが、現在の状況は、継続前兆はCH21の微弱特異と明け方のCH29-BTのみ

です。これ以上ステージが延びる可能性は考えにくいと思われます。

いずれにしても、可能性が考えやすい、12月15日±のピークを観測した場合は、現在認識が正しい可能性が支持されますので、続報でご報告したいと考えます。

- ◆推定領域：右図 太線領域内＝大枠推定領域 斜線領域＝可能性が考え易い推定領域 ※影響局誤認の場合は東北領域 (可能性低い見解)

◆推定規模：M7.8 ± 0.5

◆推定時期：実際の前兆終息を観測確認後、推定予定。現状考えやすい可能性：12/15±にピーク出現の場合 ⇨ 12月24日±の可能性 ※現在の認識からの予測と異なるデータが録れた場合は、再検討後、続報で報告させて頂きます。

◇推定地震種：震源が浅い日本列島の地殻地震
◇推定発生時刻：午前09時± (又は午後06時±)

